

平成 1 1 年度試験研究成果

区 分	普 及	題 名	平成12年度雑草防除基準に採用した水稻除草剤			
〔要約〕 カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロロンメチル剤、エスプロカルブ・ベンスルフロロンメチル水和剤、シハロホップブチル・ピラゾスルフロロンエチル・メフェナセット、シハロホップブチル剤の除草効果・葉害・安全性を検討した結果、実用性が確認されたので雑草防除基準に採用した。						
キーワード	水稻除草剤	実用化	雑草防除基準	農産部	水田作研究室・銘柄米開発研究室	

1. 背景とねらい

新規登録の水稻除草剤について検討した結果、本県の水田雑草の発生様相、除草効果および安全性の面から、適用性が高い薬剤を平成 1 2 年度の雑草防除基準に採用した。

2. 技術の内容

(1) 新除草剤一覧

区分	初期一発処理剤	初中期一発処理剤		中期剤
除草剤名	クサトリエースH ジャンボ	オーテフロアブル	リボルバー 1 キロ粒剤	クリンチャー ジャンボ
有効成分(含量%)	カフェンストロール (7.0) ダイムロン (15.0) ベンスルフロロン メチル(2.5)	エスプロカルブ (30.0) ベンスルフロロン メチル(1.4)	シハロホップブチル (1.5) ピラゾスルフロロン エチル(0.3) メフェナセット (7.5)	シハロホップブチル (1.8)
人畜毒性 魚毒性	普通 B 類相当	普通 B 類相当	普通 B 類相当	普通 A 類相当
使用時期	移植後5～10日 (ノビエ1.5葉まで)	移植後7～12日 (ノビエ2.0葉まで)	移植後7～15日 (ノビエ2.5葉まで)	移植後25～30日 (ノビエ4.0葉まで)
10 a 当り使用量	30 g × 10 個 (300 g)	500 ml	1 kg	50 g × 30 個 (1.5kg)
処理方法	湛水散布	原液湛水散布	湛水散布	湛水兼土壌処理
登録年月日	H9.3.27	H10.12.11	H8.12.25	H9.12.12
備 考	省力、簡易散布が可能。	簡易散布が可能、既存の 1 kg 粒剤と比較して安価。	散布適期幅の拡大。同等剤よりも安価。	ヒエ専用剤。省力、簡易散布が可能

(2) 除草効果

除草剤名	残効 (日)	一年生雑草			多年生・その他雑草									特記事項
		ノビエ	タマガリ	その他	マツバイ	ホタルイ	ヘオダカ	ミガツリ	ヒルム	表層	クワイ	オモダ	シズイ	
クサトリエースH ジャンボ	35	☆ 1.5L	☆	☆	☆	☆ 2.0L	☆ 2.0L	☆ 発生始	☆ 発生始	—	—	—	—	セリにも 卓効
オーテフロアブル	35	☆ 2.0L	☆	☆	☆	☆ 2.0L	☆ 2.0L	☆ 発生始	☆ 発生盛	○ 発生前	—	—	—	セリにも 卓効
リボルバー 1 キロ 粒剤	40	☆ 2.5L	☆	☆	☆	☆ 2.0L	☆ 2.0L	☆ 2.0L	☆ 発生盛	○ 発生始	○ 発生始	○ 発生始	—	セリにも 卓効
クリンチャー ジャンボ	—	☆ 4.0L	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	ノビエの みに効果

凡例 ☆卓効、◎効果極大、○効果大、×効果なし、—未確認

3. 普及上の留意事項

2—(2) 参照のこと

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔水田利用 2〕—2—(2)—ア 新除草剤の効果の解明

6. 参考文献・資料

(1) 夏作関係除草剤・作用特性・適用性判定試験成績総合要録(水稻編). 1995～1998. (財)日本植物調節剤研究協会(一部未定稿).

(2) 平成 1 1 年度農業展示圃成績書. 1999. (財)岩手県植物防疫協会.

7 試験成績

表1 クサトリエースHジャンボの普及展示圃成績 (H11)

公所	区別	除草剤名	処理時期	処理量 /10a	処理時の雑草 発生状況	残草量 (慣行比%)	薬害	総合 評価点	備 考
盛岡 普セ	試験	クサトリエースHジャンボ	+10	30g×10個 (300g)	ノビエ1.5L	生体0.10g (38%)	無	A	30 a
	慣行	ジョイスターフロアブル	+10	500ml	ノビエ1.5L	生体0.26g	無		灰色台地土・埴土 日減水深1cm/日
花巻 普セ	試験	クサトリエースHジャンボ	+6	30g×10個 (300g)	ノビエ始 ホタルイ始	風乾 t g (100%)	無	A	50 a
	慣行	スパー克斯ター1キロ粒剤	+6	1 kg	ノビエ始 ホタルイ始	風乾 t g	無		細粒グライ台地土・埴土 日減水深1cm/日

表2 オーテフロアブルの普及展示圃成績 (H11)

公所	区別	除草剤名	処理時期	処理量 /10a	処理時の雑草 発生状況	残草量 (慣行比%)	薬害	総合 評価点	備 考
水沢 普セ	試験	オーテフロアブル	+5	500ml	ノビエ0.5L	0.00g (0%)	無	A	25 a
	慣行	デクト1キロ粒剤	+5	1 kg	ノビエ0.3L	0.00g	無		褐色低地土・埴土 日減水深2cm/日
宮古 普セ	試験	オーテフロアブル	+10	500ml	ノビエ1.0L ホタルイ1.5L	生体0.20g (∞%)	無	A	10 a、ヒエや取りこぼし
	慣行	デクト1キロ粒剤	+10	1 kg	ノビエ1.0L ホタルイ1.5L	生体0.00g	無		多湿黒ボク土・埴土 日減水深1～2cm/日
二戸 普セ	試験	オーテフロアブル	+7	500ml	ノビエ始～1.0L ホタルイ始～1.0L	生体 t g (100%)	無	A	20 a
	慣行	デクト1キロ粒剤	+7	1 kg	ノビエ始～1.0L ホタルイ始～1.0L	生体 t g	無		多湿黒ボク土・埴土 日減水深2～3cm/日

表3 オーテフロアブルの普及展示圃成績 (H11)

公所	区別	除草剤名	処理時期	処理量 /10a	処理時の雑草 発生状況	残草量 (慣行比%)	薬害	総合 評価点	備 考
盛岡 普セ	試験	リボルバー1キロ粒剤	+14	1 kg	ノビエ2.5L ホタルイ2.0L	風乾3.3g (550%)	生育抑制	A	10 a、ノビエは枯殺、残草は主に広葉
	慣行	キンダダムフロアブル	+9	500ml	ノビエ2.0L ホタルイ1.5L	風乾0.6g	生育抑制		多湿黒ボク土・埴土 日減水深1.5cm/日
水沢 普セ	試験	リボルバー1キロ粒剤	+5	1 kg	ノビエ0.5L	0.0g (0%)	無	A	25 a、表層剥離に効果少
	慣行	デクト1キロ粒剤	+5	1 kg	ノビエ0.3L	0.0g	無		褐色低地土・埴土 日減水深2cm/日
千厩 普セ	試験	リボルバー1キロ粒剤	+9	1 kg	ノビエ2.0～2.5L ホタルイ1.0～1.5L	生体9.3g (64%)	無	A	80 a
	慣行	ジョイスターフロアブル	+6	500ml	ノビエ2.0L ホタルイ1.0L	生体14.5g	無		灰色低地土・埴土 日減水深1～1.5cm/日

表4 クリンチャージャンボの普及展示圃成績 (H11)

公所	区別	除草剤名	処理時期	処理量 /10a	処理時の雑草 発生状況	残草量 (慣行比%)	薬害	総合 評価点	備 考
盛岡 普セ	試験	(プロスパーA1キロ粒剤) →クリンチャージャンボ	(+8) →+31	1 kg →50g×30個 (1.5kg)	ノビエ発生始 →ノビエ4.0L	生体0.03g (3%)	無	A	25 a
	慣行	プロスパーA1キロ粒剤	+8	1 kg		生体0.63g			褐色低地土・埴土 日減水深1cm/日
遠野 普セ	試験	(レトリーフロアブル) →クリンチャージャンボ	(+4) →+22	500ml →50g×20個 (1kg)	ノビエ発生前 →ノビエ2.5L →ノビエ3.0L	生体0.00g (0%)	無	A	1ha
	慣行	ジョイスターフロアブル →クリンチャーバスターME液剤	+18	500ml →1000ml	ノビエ2.0L →ノビエ4.0L	生体0.00g	無		多湿黒ボク土・埴土 日減水深1cm/日
釜石 普セ	試験	(フジグラス1キロ粒剤75) →クリンチャージャンボ	(+7) →+26	1 kg →30個 (1.5kg)	ノビエ1.0L →ノビエ3.5L	風乾0.00g (0%)	無	A	6 a
	慣行	フジグラス1キロ粒剤75	+7	1 kg		風乾1.76g			褐色森林土・埴土 日減水深2.4cm/日